

学校教育目標 夢や目標を持ち 未来を拓く 栗原小教育の創造

a ミッション 栗原しぐさ、連携教育、図書館教育を開進させた教育活動にする  
「豊かな心を持つ子供の姿」の実現

a ビジョン ○期待される学校、誇れる学校、前進する学校  
○栗原のこころ「栗原しぐさ」が根付く学校

○家庭・保・幼・中との連携から「つながる教育」ができる学校  
○栗原のこころ「栗原しぐさ」が根付く学校  
○家庭・保・幼・中との連携から「つながる教育」ができる学校  
○進道の核として、情報発信できる学校

尾道市立栗原小学校

評価計画					自己評価				学校関係者評価			改善計画	責任者			
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価				l コメント	m 改善案	
					g 達成率	g 達成率	h 達成度	i 評価		イ	ロ	ハ				
豊かな「時間」「心」「つながり」で子供を育てる	学びを深める	徹底指導	家庭学習の定着 〈ブロック連携〉	・家庭学習を意欲的に取り組み、毎日忘れずに提出できる児童の割合	90%	98%	108%	A	下校するまでには、ほぼ全員が宿題を終わらせたが、朝宿題を提出できる児童は、全校で90%程度なので2学期は朝提出できる児童を増加させる。	3			・宿題の朝の提出率アップへ更なる努力をお願いします。 ・保護者の協力、理解が必要であり、粘り強く継続をしてください。	朝宿題を提出できるようにするために、課題のある児童には、放課後残ってその日の宿題をさせ宿題をするリズムをつくらせる。そして、徐々に家で宿題をするようにしていきたい。	金子	
			朝読書・ステップタイムの完全実施	・開始時刻を守り、朝読書・ステップタイムが実施できる割合	100%	98%	98%	B	チェックシートを活用したので全体的にはほぼ実施できているが、日によっては確実に時刻を守って実施できていない実態がある。	3			・朝読書の目標値がほぼ達成できていることはうれしいです。朝読書によって読書に親しむ児童が増えているかどうかについても知りたいところです。	2学期もチェックシートを継続して使用するとともに、学級間でお互いに声をかけ合ってステップタイムをしていきたい。		
			栗原しぐさを中心とした生徒指導規程に基づく一貫指導と評価 〈ブロック連携〉	・立ち止まって、相手の目を見て挨拶のできる児童の割合 (児童アンケート)	80%	87%	108%	A	「よくできた」とする児童は、低学年に多く高学年では「できた」に留まる児童が多い。目標は達成できたが、自発性に欠ける児童もあり、あいさつ名人を中心にあいさつ運動を更に活発にしていかなければならない。	3			・挨拶等マナーについては小さいときから身につけることが将来に繋がります。力を注いでください。 ・姿勢、作法を先生方にも学んでほしい。教師の背中が子供達にとって一番の教育になると思います。 ・掃除作業中に無言で行うことは、集中力を付ける事に繋がります重要なことだと思います。 ・掃除には指示や相談が必要な場面もあるので、すべて「無言」で行うことは難しい。改善案の通り工夫をお願いします。	各学級にいるあいさつ名人を中心に日々のできる運動を活動にし第2第3のあいさつ名人を発掘していく取組を児童会活動として実践する。	田川	
		・無言掃除のできる児童の割合 (児童アンケート)	80%	59%	73%	C	7月の生活目標として取り組んだが、掃除の仕方を指導することに時間がかかり、自主的に無言で動くには難しい学年も多かった。教室以外の場所をどう指導していくかが今後の課題である。	3			掃除の割当て・分担・掃除の仕方の指導などの時間を設け、全く無言で行動できる状況をつくる。日々の振り返りをていねいに行う。					
		人間性を育む	生活リズムの定着	早寝・早起き・朝ご飯 アウトメディアの取組 〈ブロック連携〉	・生活アンケートや自己ふりかえりカードを活用し、アウトメディアの実感をもたせる。	100%	100%	100%	A	6月に保護者に「家庭での健康づくり等に関する実態調査」を実施した。その結果から、多くの家庭で子供の健康状態やアウトメディアに関心を持ってくださっていることがわかった。アウトメディアの取組には、生活リズムと関連づけることが有効であることがわかったので、情報発信等により、各家庭で取り組んでいくことの重要性を保護者と共に考えていきたい。	3			・家庭での理解が必要です。しっかりと情報発信をお願いします。就寝時刻や起床時刻を決めていない家庭については是非指導をしてください。 ・家庭の状況把握はきわめて重要で、保護者の意識改革が最大の課題であると感じました。更なる取組をお願いします。 ・保護者の協力が欠かせない項目だけに困難もあると思いますが、啓発の効果が上がっていることについては評価します。	家庭において朝の健康観察（健康状態の把握）を行えば、子供の健康づくりや親子のコミュニケーションにつながることを保護者や子供が意識したり、実感したりできるようにするために、本実態調査に寄せられた家庭での具体的な取組や親の願いを、参観授業や懇談会、通信等で発信し、子供の健康づくりを工夫するきっかけを作る。9月の参観日及び懇談会で課題提示し、考える場としていく。	神森
					・学習の振り返り、友達とのかわりを示す表現ができる児童の割合	70%	51%	73%	C	1学期は、友達のかかわりを児童に意識させることが不十分であった。2学期は、振り返りの祭りに使うキーワード等を教室内に掲示し、児童の意識を高めていきたい。	3			・縦割りの活動は、普通域で遊んでいた姿を思い出し、懐かしい思いがしました。良き思い出として心にも残っており、期待できる取組だと評価します。	各教室に振り返りで書く内容及び話型を掲示し振り返りの定着を図る。そして、友達から学んだことを自覚させることでかかわりの大切さに気づかせる。	
	共感的人間関係づくり				・人とかかわる中で自分や友達の成長を実感できる教育の推進 ・学校行事 ・日々の授業等	・アクセスの実施による、学級実態把握 ・学期に一回以上、グループエンカウンター等、仲間作りのエクササイズを実施する。	100%	100%	100%	A	3年生以上のアクセスを実施することができ、学級の傾向をとりえたり支援が必要な児童をピックアップすることができた。1学期にグループエンカウンター研修ができなかった。そのため、仲間作りの活動はできなかったが、視点や内容面に課題がみられる。	3			・現代の若者を見ているとコミュニケーション不足を感じます。今学校で取り組んでいる人間関係作りが将来につながりと思っておりますので、取組を継続してください。 ・学習の振り返り友達との関わりにおいて、友達の良い点を積極的に評価することは素晴らしいと思いますが、評価される児童が固定化されることがないよう配慮をお願いします。	課題をもって児童に対する取組みの計画を立て実施する。 夏休み中にエンカウンターの研修をもつことができた。今後は、学級実態に応じた仲間づくりのエクササイズの数をもっと多く提供し実践する。
	・児童集会や縦割り集会を工夫し、異学年との交流やレクリエーションを学期に二回以上行う。		100%	100%	100%	A	縦割り集会を定期的実施し、異学年との交流を持つことができた。しかし、朝の集会時では交流時間が短いので、今後時間確保について工夫していきたい。	3			縦割り集会の時間を確保すると共に内容面についても計画的に実施する。 児童会でも異学年の交流できる活動を取り入れていく。	高橋				

【自己評価 評価】  
A：100≦(目標達成)  
C：60≦(もう少し) < 80  
B：80≦(ほぼ達成) < 100  
D：(できていない) < 60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。